

大手メディアでは決して報道されない

新型コロナワクチン“薬害”を知ってください

新型コロナワクチン接種後に様々な健康被害や体調不良を訴える方や死亡する方が急増していますが、そのほとんどは国や公的機関による救済を受けられずに苦しい状況に置かれています。

2,000人を超える接種後の死亡報告

厚生労働省発表 コロナワクチン接種後の副反応疑い報告状況

ワクチン接種後の死亡者

2,059人

副反応の報告者

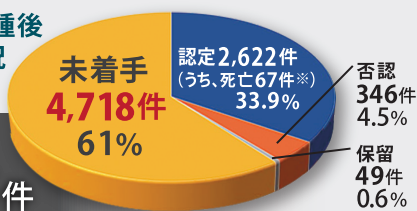
36,317人
(重篤者 8,528人)

第93回 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会(2023年4月28日)「医療機関からの副反応疑い報告状況について」より

7,700件を超える健康被害救済申請件数

新型コロナワクチン接種後健康被害救済審査状況

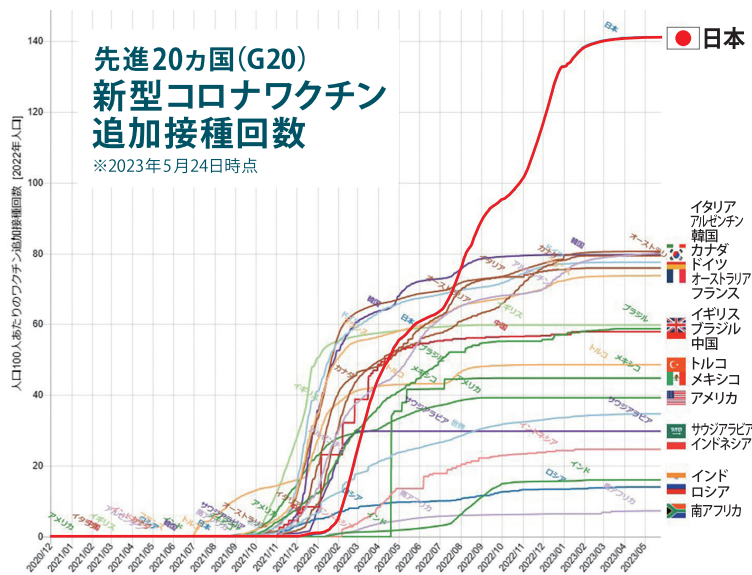
※2023年5月26日時点



第159回 厚生労働省疾病・障害認定審査会 感染症・予防接種審査分科会(2023年5月26日)「新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査部会の審議結果」より作成
※死因問わず、死亡一時金・葬祭料請求に対する認定件数
(出典:堀内有加里臨床薬学博士作成「予防接種救済申請受理数と審査状況についてのグラフ」より)

現在、新型コロナワクチン接種による「健康被害救済制度」の申請受理数が既に**7,700件**を超えています。さらなる増加の一途をたどっています。厚生労働省では申請の着手が追いかず、救済を受けられずにいる方が**4,700人**以上もいます。

世界で日本だけが続けている追加接種



日本は、世界に比べ圧倒的に多い接種回数となっています。海外の各国では、国民が危険性に気付き2~3回の接種で止めました。現在、日本だけがワクチンによる被害を無視したままで、4回、5回、6回と追加接種を続けています。

NPO法人 駆け込み寺2020・ワクチン被害者遺族の会「繋ぐ会」

接種による死亡が疑われる被害者遺族の相談先

ワクチン被害者の救済を目的とした、代表の鶴川和久氏をはじめ、賛同議員、弁護士、医師有志で構成された団体です。被害者遺族だけでなく、ワクチンハラスメントで苦しむ方への無料の相談窓口も設けています。ワクチン被害者遺族の会「繋ぐ会」を結成して、ワクチン薬害の集団訴訟の準備が進められています。

NPO法人駆け込み寺2020 TOPページへ



追加接種の度に危険性が増します

新型コロナワクチン(mRNAワクチン)の危険性

新型コロナワクチンは人類初の mRNA 遺伝子製剤です。コロナウイルスのスパイクタンパクが人の細胞で作られ、その抗体が自己の免疫反応で生産されるという全く新しい技術の製剤です。このスパイクタンパクが人体に毒性を持つこと、ワクチンの mRNA には人工的な加工が施され、それが人体に様々な悪影響を及ぼす可能性があります。また、長期的な人体への影響は不明です。

国内外での研究・調査では、現在までに以下の事が判明しています。

- ▲ **ワクチン接種者の方がコロナに感染しやすくなり、死亡リスクも高まる。**
- ▲ **人体の免疫が攪乱され、他の感染症や病気を発症しやすくなる。**
- ▲ **スパイクタンパクの毒性により、血栓症や血管炎などを引き起こす可能性が高まる。**
- ▲ **スパイクタンパクを産生する細胞が自己の免疫に攻撃され、自己免疫疾患を発症する可能性が高まる。**



このような危険性の高いワクチンを今後追加接種する必要はありません

全国有志医師の会

